

1. 北東北の自立のための地域資源

北東北は、豊かな自然環境、風土に根ざした伝統文化や、日常生活を支える社会資本など多様な地域資源を有している。ここでは、北東北の自立のために活用可能な主要な地域資源を本文に記載した以下の観点から提示する。

1. 資源の生産量の多いもの
2. 地域でのみ産出・生産されるもの
3. 国など第三者から評価を受けている資源
4. 資源として認識されていないが発展が予想されるもの

1 資源の生産量の多いもの

特産的資源

(ア) 農産物

3県の農業粗生産額は、全国で8.1%のシェアを占め、人口シェア3.2%と比して高水準にあることから、農業が盛んであると言える。

(単位：億円)

	青森県		岩手県		秋田県		3県計	全国計
耕種計	11位	2,017	17位	1,538	15位	1,794	5,349	66,327
米	11位	647	10位	874	3位	1,307	2,828	23,253
野菜	13位	607	26位	304	27位	289	1,200	21,195
果実	3位	573	18位	144	30位	84	674	8,120

出典：岩手県作成資料

北東北が収穫量において上位を占める農産物(3県いずれかで全国3位以内)である米及びりんご及びさくらんぼの県別収穫量を見ると、米は秋田県が全国3位、りんごは青森県が全国1位、さくらんぼは青森県が全国3位である。また、3県の全国シェアについては、米が12.6%、りんごは62.2%、さくらんぼ9.3%となっている。

(単位：千トン)

	青森県		岩手県		秋田県		3県計	全国計
米	11位	315	10位	328	3位	456	1,099	8,721
りんご	1位	425	3位	60	5位	39	524	842
さくらんぼ	3位	1.4	8位	0.06	5位	0.3	1.8	19.6

出典：農林水産省大臣官房統計部 『平成16年産水陸稲の収穫量』

『平成15年産りんごの収穫量及び出荷量』 『平成13年果樹生産出荷統計』

また、北東北において生産量の多い、ながいも及びにんにく、については以下のようになっている。

(単位：千トン)

	青森県			岩手県			秋田県			3県計		全国計	
	順位	数量	%	順位	数量	%	順位	数量	%	数量	%	数量	%
ながいも	1位	6,952	63.6	4位	443	4.0	-	-	-	7,395	67.6	10,935	100

出典：『平成 15 年 東京中央卸売市場成果物流通年報』

(単位：千トン)

	青森県			岩手県			秋田県			3県計		全国計	
	順位	数量	%	順位	数量	%	順位	数量	%	数量	%	数量	%
にんにく	1位	14,600	79.8	3位	700	3.8	4位	288	1.5	15,588	85.2	18,288	100

出典：『平成 12 年産 地域特産物野菜の生活状況』

(イ) 林業

木材産出額は、3県とも全国 10 位以内に入っており、豊富な森林資源が活用されている。

林業産出額

(単位：億円)

	青森県		岩手県		秋田県		3県計		全国計	
	順位	数量	順位	数量	順位	数量	数量	数量	数量	数量
木材	9位	755	4位	1,189	7位	882	2,826	23,325		
薪炭	30位	4	3位	72	30位	4	80	755		
きのこ	30位	122	8位	666	18位	343	1,131	20,665		
副産物	23位	0	10位	7	14位	3	10	279		
合計	16位	882	5位	1,934	12位	1,232	4,048	45,025		

出典：農林水産省大臣官房統計部 『平成 15 年林業産出額』

(ウ) 畜産

畜産は、3県の中では岩手県において盛んで、乳用牛、肉用牛、豚の飼育数はいずれも全国 10 位以内である。

(単位：千頭、千匹)

	青森県		岩手県		秋田県		3県計		全国計	
	順位	数量	順位	数量	順位	数量	数量	数量	数量	数量
乳用牛	20位	17	3位	57	34位	7	81	1,683		
肉用牛	17位	56	5位	108	30位	23	187	2,805		
豚	8位	389	7位	396	12位	244	1,029	9,724		

出典：農林水産省大臣官房統計部 『畜産統計調査』

(エ) 水産物

漁業・養殖業は、青森県及び岩手県では盛んだが、秋田県では両県ほど展開されていない。

漁業・養殖業生産額

(単位：百万円)

	青森県		岩手県		秋田県		3県計	全国計
海面合計	7位	70,300	12位	48,129	38位	4,605	123,034	1,761,225
漁業合計	3位	56,069	5位	35,820	37位	4,545	96,434	1,233,994
遠洋漁業	7位	13,552	11位	7,153	28位	43	20,748	211,970
沖合漁業	3位	21,614	6位	5,577	35位	1,334	28,525	445,576
沿岸漁業	6位	20,902	5位	23,089	37位	3,168	47,159	576,449
養殖合計	14位	14,232	16位	12,310	36位	60	26,602	527,230

出典：岩手県作成資料

青森県が、ほたてがい、いか類の漁獲について全国で高順位となっている一方で、岩手県は、さけ・ます類、おきあみ類、わかめ類の漁獲で優位にある。

海面漁業主要魚別漁獲量

(単位：100トン)

	青森県		岩手県		秋田県		3県計	全国計
さけ・ます類	4位	53	2位	296	6位	4	353	2,875
おきあみ類	-	-	1位	228	-	-	228	512
ほたてがい	2位	25	-	-	-	-	25	3,441
いか類	1位	1,094	6位	115	43位	3	1,212	3,824

出典：農林水産省大臣官房統計部 『平成15年漁業・養殖業生産統計』

海面養殖業主要魚別漁獲量

(単位：100トン)

	青森県		岩手県		秋田県		3県計	全国計
ほたてがい	2位	815	-	-	-	-	815	2,571
わかめ類	19位	0	1位	246	19位	0	246	593

出典：農林水産省大臣官房統計部 『平成15年漁業・養殖業生産統計』

内水面漁業主要魚別漁獲量

(単位：トン)

	青森県		岩手県		秋田県		3県計	全国計
さけ・ます類	4位	534	2位	3,069	18位	40	3,643	16,920
わかさぎ	1位	597	16位	2	4位	285	884	1,974
しじみ	2位	4,619	-	-	25位	1	4,620	16,940

出典：農林水産省大臣官房統計部 『平成15年漁業・養殖業生産統計』

内水面漁業主要魚別漁獲量

(単位：トン)

	青森県		岩手県		秋田県		3県計	全国計
ます類	22位	86	6位	670	13位	189	945	13,426

出典：農林水産省大臣官房統計部 『平成15年漁業・養殖業生産統計』

2 地域でのみ産出・生産されるもの

地理的条件

3県合計の面積は 36,497 k m²であり、国土の 9.7%を占めている。そして、そのうち 75.2%が森林である。

人間的条件

3県の人口密度は、いずれも全国平均を下回っている。

また、1995年から2000年にかけて3県とも人口が減少した一方で、高齢化率は3県とも全国平均を上回っており、過疎化・高齢化が進んでいると言える。

	青森県	岩手県	秋田県	全国
人口密度 (人/ k m ²)	154	92	101	336
1995年 2000年 人口増減率 (%)	- 0.4	- 0.2	- 2.0	1.1
高齢化率 (%)	19.5	21.5	23.5	17.3

出典：東洋経済新報社 『地域経済総覧 2005年版』

人的資源

地域の人材育成において重要な役割を担う大学の設置状況を見ると、1990年代以降に県立大学が各県に設立され、既存の大学がカバーしていなかった分野の研究基盤、人材育成基盤が整備されてきた。

	青森県 (開設年)	岩手県 (開設年)	秋田県 (開設年)
国立大学	弘前大学 (1949年) ・ 人文学部 ・ 教育学部 ・ 医学部 ・ 理工学部 ・ 農学生命科学部	岩手大学 (1949年) ・ 人文社会科学部 ・ 教育学部 ・ 工学部 ・ 農学部	秋田大学 (1949年) ・ 教育文化学部 ・ 医学部 ・ 工学資源学部
公立大学	青森公立大学 (1992年) ・ 経営経済学部 青森県立保健大学 (1998年) ・ 健康科学部	岩手県立大学 (1997年) ・ 看護学部 ・ 社会福祉学部 ・ ソフトウェア情報学部 ・ 総合政策学部	秋田県立大学 (1998年) ・ 生物資源科学部 ・ システム科学技術学部 国際教養大学 (2004年) ・ 国際教養学部

私立大学	北里大学（1966年） ・ 獣医畜産学部 青森大学（1968年） ・ 経営学部 ・ 社会学部 ・ ソフトウェア情報学部 ・ 薬学部 東北女子大学（1969年） ・ 家政学部 弘前学院大学（1971年） ・ 文学部 ・ 社会福祉学部 八戸工業大学（1972年） ・ 工学部 八戸大学（1981年） ・ ビジネス学部 青森中央学院大学（1997年） ・ 経営法学部	岩手医科大学（1952年） ・ 医学部 ・ 歯学部 富士大学（1965年） ・ 経済学部 北里大学（1972年） ・ 水産学部 盛岡大学（1981年） ・ 文学部	秋田経済法科大学（1964年） ・ 経済学部 ・ 法学部
------	---	---	------------------------------------

出典：各県 HP 及び各大学 HP

また、人材の面からは新分野の開拓に精力的に取り組んでいる人も多い。国土交通省が選定している観光カリスマ百選に4名（全国100名）、経済産業省が選定した地域産業おこしに燃える人に4名（全国33名）それぞれ選定されている。地域産業おこしに燃える人のうち、相澤徹氏及び岩淵明氏は、岩手ネットワークシステムの主要メンバーである。

	青森県	岩手県	秋田県
観光カリスマ百選	角田周（企画集団「ラブリー金木」）	綾野輝也（株式会社黒船）	佐藤和志（有限会社鶴の湯温泉） 田口久義（特定非営利活動法人田沢湖ふるさとふれあい協議会）
地域産業おこしに燃える人		相澤徹（岩手県庁） 岩淵明（岩手大学） 佐藤利雄（花巻市起業化支援センター）	佐藤晃一（本荘由利産学共同センター）

社会経済的資源

（ア）国指定無形民俗文化財

北東北に伝わる伝統芸能のうち、25件が国指定無形民俗文化財の指定を受けている（全国750件）。

国指定無形民俗文化財

青森県	岩手県	秋田県
八戸のえんぶり 青森のねぶた 弘前のねぶた 岩木山の登拝行事 下北の能舞 泉山の登拝行事	早池峰神楽 毛通寺の延年 永井の大念仏剣舞 山屋の田植踊 室根神社祭のマツリバ行事 鬼剣舞	大日堂舞楽 保呂羽山の霜月神楽 男鹿のナマハゲ 秋田の竿灯 西馬音内の盆踊 六郷のカマクラ行事 刈和野の大綱引き 東湖八坂神社のトウニン行事 角館祭りのやま行事 土崎神明社祭の曳山行事 毛馬内の盆踊 上郷の小正月行事 根子番楽

出典：各県 HP

(イ) 伝統的工芸品

北東北においては以前からのものづくりの伝統が継承されており、経済産業大臣から 9 品目が伝統的工芸品の指定を受けている（全国 206 品目）。

伝統的工芸品

青森県	岩手県	秋田県
津軽塗	秀衡塗 浄法寺塗 岩谷堂筆笥 南部鉄器	川連漆器 樺細工 大館曲げわっぱ 秋田杉桶樽

出典：各県 HP

3 国など第三者から評価を受けている資源

原生的自然資源

3 県の面積の 75.2% を占める森林のうち、42.4% が天然林となっている。特に、ブナ林の蓄積は全国の 33.6% を占める。

世界最大級の原生的なブナ天然林である白神山地が世界自然遺産（全国 2）に登録されているほか、3 県内では 2 国立公園（全国 28）、6 国定公園（全国 55）が指定されており、原生的自然資源は豊富である。

	青森県	岩手県	秋田県
世界自然遺産	白神山地		白神山地
国立公園	十和田八幡平	十和田八幡平 陸中海岸	十和田八幡平
国定公園	津軽 下北半島	栗駒 早池峰	栗駒 鳥海 男鹿

出典：各県 HP

また、深田久弥氏が選定した日本百名山に 6 峰、朝日新聞社及び社団法人森林文化協会が選定した日本の自然百選にも 6 か所選定されている。

	青森県	岩手県	秋田県
日本百名山	八甲田山 岩木山	岩手山 八幡平 早池峰山	鳥海山
日本の自然百選	白神山地のブナ林 屏風山湿原 蔦温泉の自然林	五葉山 櫃取湿原	白神山地のブナ林 能代海岸の砂防林

出典：各県 HP

二次的自然資源

農林水産省が選定した農村景観百選には、3 県からは 7 か所が選定されている。

農村景観百選

青森県	岩手県	秋田県
宮地（岩木町） 八幡崎（尾上町） 泥障作（南郷村）	南都田（胆沢町）	伊勢居地（仁賀保町） 南由利原（由利町） 岩井川（東成瀬村）

出典：各県 HP

野生生物・鉱物資源

国指定特別天然記念物には7件（全国75件）、天然記念物には55件（全国897件）が指定されている。

特別天然記念物

青森県	岩手県	秋田県
【動物】 カモシカ 小湊のハクチョウ及びその渡来地	【動物】 カモシカ 【植物】 早池峰山及び薬師岳の高山帯・森林植物群落 【地質鉱物】 根反の大珪化木 夏湯温泉の石灰華 焼走り溶岩流	【動物】 カモシカ 【地質鉱物】 玉川温泉の北投石

出典：各県 HP

水資源

面積の75.2%を森林が占める北東北は、良質な水の宝庫であり、環境省が選定した名水百選に6、林野庁が選定した水源の森百選には7か所が選定されている。

	青森県	岩手県	秋田県
名水百選	富田の清水（弘前市） 渾神の清水（平賀町）	金沢清水（松尾村） 龍泉洞地底湖の水（岩泉町）	六郷湧水群（美郷町） 力水（湯沢市）
水源の森百選	青垣の山（平内町） 町民の森（田子町）	焼石連峰水源の森（胆沢町） 早池峰水源の森（遠野市）	白神山系水沢川源流の森（峰浜村） 七滝水源かん養保安林（美郷町） 大滝沢国有林（稲川町）

出典：各県 HP

温泉

温泉については、全国で3,127ある温泉地のうち363か所が3県に位置している（平成15年度）。そして、観光経済新聞社が主催する第18回にっぽんの温泉100選（2004年）では、8か所の温泉地がランクインしている。

	青森県	岩手県	秋田県
温泉地数	144	91	128
にっぽんの温泉 100選	谷地（51位） 十和田湖（56位） 酸ヶ湯（61位） 黄金崎不老ふ死（95位）	花巻（58位） 岩手大沢（90位）	乳頭温泉郷（16位） 玉川（62位）

出典：環境省 『平成 15 年度温泉利用状況』

<http://www.kankoukeizai.com/100sen/18.html>

歴史的資源

北東北では、5か所が国指定特別史跡に指定されている（全国 61 か所）。

国指定特別史跡

青森県	岩手県	秋田県
三内丸山遺跡	中尊寺境内 毛越寺跡附属鎮守社跡 無量光院跡	大湯環状列石

出典：各県 HP

人工施設資源

重要伝統的建造物群保存地区には 3 か所が指定されている（全国 61 か所）。また、国土交通省が選定している都市景観 100 選には 4 か所、日本の道百選には 6 か所が選定されている。中でも、秋田県角館町は、全てに選定されている。

	青森県	岩手県	秋田県
重要伝統的建造物群保存地区	弘前市仲町	金ヶ崎町城内諏訪小路	角館町角館
都市景観 100 選	駅前地区（弘前市）	盛岡城址・中津川周辺地区（盛岡市） 花巻駅周辺地区（花巻市）	内町地区（角館町）
日本の道百選	こみせ（黒石市） 官庁街通り（十和田市）	寺町通り（盛岡市） 市道金沢線・岩が崎線（一関市）	秋田市広小路（秋田市） 角館町武家屋敷通り（角館町）

出典：各県 HP

4 資源として認識されていないが発展が予想されるもの

気象的条件

北東北は東京と比べ平均気温が低く、降雪日数が多い。3県を比較すると、秋田は日照時間が最も短い一方で、最大風速 10m/s 以上の日数が多いのが特徴である。

	青森	盛岡	秋田	東京
平均気温 ()	10.1	10.0	11.4	15.9
相対湿度 (%)	75	74	73	63
降水量 (mm)	1,290	1,254	1,713	1,467
日照時間 (時間)	1,676	1,740	1,597	1,847
最大風速 10m/s 以上の日数 (日)	58.5	18.1	91.1	25.8
降雪日数 (日)	106.8	102.4	97.3	9.3

出典：国立天文台編 『理科年表 平成 17 年』

エネルギー資源

北東北は全国有数の風力発電地帯である。3県には 159 台の風力発電用風車があり、定格出力は 165,635kW である (全国 523 台、411,871kW)。

	青森県	岩手県	秋田県
風車台数 (台)	89	4	66
定格出力 (kW)	102,655	1,690	61,290

出典：<http://homepage1.nifty.com/cubo/wind/>より作成

技術集積・技術資源

例：北上の金型集積、高純度酸化亜鉛 等

農畜水産物

全国各地で生産され、北東北各県における絶対的な生産量はそれ程多くないためブランド化は図られていないが、3県合計では相応の量となり、今後全国的に売り出せる可能性を持つもの (例：ブルーベリー)。

(収穫量単位：トン)

	青森県		岩手県		秋田県		3県計	全国計
ブルーベリー	6位	55.7	4位	78.3	20位	5.0	139.0	981.2

出典：農林水産省大臣官房統計部 『平成 14 年産特産果樹生産動態等調査』

2. 地域資源の活用取り組み事例

(a) 青森県

市町村	受賞団体	受賞した賞	受賞年度	活動内容
弘前市	高橋彰一	サントリー地域文化賞	1983	地方出版社「津軽書房」設立
	アップルフェア推進協議会	総務大臣表彰	1996	りんごにちなんだイベント開催
黒石市	山形地区住みよい環境推進協議会	国土交通省地域づくり表彰	1988	「こけし」をテーマとしたマラソン大会開催等により「津軽こけし館」建設を実現
岩木町	岩木町農業協同組合婦人部「ふるさとの味をつくる会」	国土交通省地域づくり表彰	1985	添加物を一切使わない漬物を製造
	岩木3・6の会	国土交通省地域づくり表彰	1990	津軽三味線フェスティバル等のイベント開催
板柳町	板柳町	国土交通省地域づくり表彰	1993	りんご関連産品開発、観光・体験農業施設「ふるさとセンター」建設のほか、りんごのブランド化を推進
五所川原市	五所川原市	毎日・地方自治大賞	2000	五所川原立佞武多の復活と街の再生
深浦町	深浦町	総務大臣表彰	1998	白神山地等を活用した観光振興、地場産にんじんを活用したジュース、ワイン等の生産
八戸市	八戸市民創作オペラ協会	サントリー地域文化賞	1990	市民手作りでオペラ上演に取り組む
田子町	田子町	総務大臣表彰	1988	にんにくと牛肉を題材にしたイベント開催、牛肉の販売・飲食施設整備
むつ市	むつ国際協会	総務大臣表彰	1995	アメリカ・ワシントン州ポートランド市との交流
佐井村	サプリーさい販売事業協議会	国土交通省地域づくり表彰	1991	新巻鮭などの特産品の宅配事業を展開

(b) 岩手県

市町村	受賞団体	受賞した賞	受賞年度	活動内容
盛岡市	盛岡市	総務大臣表彰	1983	生垣 1 万メートル運動等の緑化事業
滝沢村	劇団「ゆう」	総務大臣表彰	1983	演劇を通じた世代間交流の促進
二戸市	カシオペアアカデミー	総務大臣表彰	1994	二戸地方のイメージアップのため、演劇公演等実施
北上市	展勝地がいあ市「バザール街道 107」実行委員会	国土交通省地域づくり表彰	2000	桜の名所「展勝地」へのレストハウス建設を機に特産品の「市」を開催
大迫町	大迫町	総務大臣表彰	1991	道路や花壇への植栽、早池峰神楽の伝承
東和町	東和町	毎日・地方自治大賞	1995	国際的な人材育成を目的に海外研修制度等を創設
湯田町	湯田町	総務大臣表彰	1995	温泉施設整備、演劇の町としての情報発信
水沢市	水沢市	総務大臣表彰	1986	鋳物による街路灯整備
藤沢町	藤沢野焼祭実行委員会	国土交通省地域づくり表彰	1999	縄文時代の野焼きをテーマに、野焼きによる作品を製作するイベント開催
陸前高田市	全国太鼓フェスティバル実行委員会	国土交通省地域づくり表彰	1995	地元の祭り「けんか七夕太鼓」に着目し、全国太鼓フェスティバルを開催
遠野市	遠野市民の舞台	サントリー地域文化賞	1983	遠野物語を題材とする市民劇団
	遠野市	総務大臣表彰	1984	博物館都市構想、総合農村公園、市民舞台
	遠野市及び遠野物語ファンタジー制作委員会	国土交通省地域づくり表彰	1989	遠野物語を題材とする劇を毎年公演
	あやおり夢を咲かせる女性の会	国土交通省地域づくり表彰	2003	道の駅オープンに伴い伝承料理を中心とした飲食施設を開店するほか、鍋料理を囲んでの交流会等を企画
岩泉町	岩泉町	総務大臣表彰	1990	まつたけ等の特産品開発、芸術家招聘

	社団法人岩泉町産業開発公社	国土交通省地域づくり表彰	1992	「龍泉洞地底湖の水」やどんぐりパンなどの特産品を開発
田野畑村	田野畑村	国土交通省地域づくり表彰	1986	村民が広い世間に目を向け、刺激を受けるよう早稲田大学等との交流を進めるほか、地域の製品の加工販売を行う第三セクター設立

(c) 秋田県

市町村	受賞団体	受賞した賞	受賞年度	活動内容
秋田市	秋田伝承遊び研究会	サントリー地域文化賞	1980	伝承遊びの継承
象潟町	秋田トライアスロン芭蕉レース象潟大会実行委員会	総務大臣表彰	1998	芭蕉ゆかりの地域性をPRするためトライアスロン大会を開催
小坂町	小坂町	総務大臣表彰	1997	明治時代の建築物を核に町並み形成、ぶどうを用いたワイン等製造
鷹巣町	北緯40度秋田内陸リゾートカップ100キロチャレンジマラソン実行委員会	総務大臣表彰	1995	秋田内陸地域の地域おこしとしてマラソン大会を開催
能代市	能代ミュージカル制作委員会	国土交通省地域づくり表彰	1992	能代に関わる題材を能代弁で演じるミュージカルを上演
角館町	角館町	総務大臣表彰	1985	武家屋敷保存
	角館企画集団トライアングル	総務大臣表彰	2000	人力車運行等により武家屋敷地区の観光客を商人町に誘導
田沢湖町	わらび座	国土交通省地域づくり表彰	1995	日本の民謡・民族芸能をベースに舞台活動している「わらび座」が、農作業等を行う修学旅行に協力
西木町	サラダハウス	総務大臣表彰	1999	引っ越し等で不要になった本を収集し、地域住民に公開
羽後町	西馬音内盆踊保存会	サントリー地域文化賞	2003	700年の伝統を踊り継ぐ

3. 地域資源活用事例（個別）

組織名	企画集団「ラプリー金木」
活動地域	青森県北津軽郡金木町
概要	<p>「都会人と地元住民の交流を目指す」との考えから、1988年より「地吹雪体験ツアー」を実施している。</p> <p>「地吹雪体験ツアー」は、モンペ、角巻、カンジキを着用し、地吹雪の中を歩くもので、雪を知らない都会人のみならず、外国人にも人気がある（1991年以降は、毎年ハワイからも参加者が訪れている）。地吹雪体験後には、「馬ソリ体験」を楽しみ、最後には冷えた体を「鱈のじゃっば汁」で温めるプログラムが用意されている。</p> <p>また、オプションとして、1990年から「ストーブ列車車内サービス」（地酒と石炭たるまストーブで焼いたすめをモンペを着用した女性が給仕）も開始された。</p> <p>参加者は着実に増加してきたが、ボランティア中心の運営であり、増加するニーズへの対応が困難になってきたほか、当初の目的である「心温まる人情あふれる交流」、「きめ細かなサービス」を貫くため、2000年度からは「ストーブ列車車内サービス」の受け入れ人数を7,000名に限定した（サービス提供期間：11月～翌年3月）。また、「地吹雪体験ツアー」の受け入れ人数も、2001年から300名に限定している（サービス提供期間：1月～2月）。</p> <p>なお、「地吹雪体験ツアー」の認知度を高めるべく、当初は積極的にマスコミへの広報を行った。また、イベント継続のためには広域観光ルートづくりが必要であると痛感したことから、近隣市町村の民間団体等と連携して「津軽半島観光キャンペーン実行委員会」（1989年発足、2002年解散）、「津軽半島観光ネットワーク」（2002年発足）などの組織を立ち上げ、誘客キャンペーン等を実施している。</p>
活用している地域資源等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地吹雪 ・ 鱈のじゃっば汁 ・ 津軽鉄道のストーブ列車
活動の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・ ボランティアの活用 ・ マスコミの活用
活動がもたらす価値	<ul style="list-style-type: none"> ・ 交流人口の増加
地域の自立への効果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 交流人口の増加 ・ 広域観光ルートづくりの必要性の認識共有

組織名	有限会社北のグルメ都市
活動地域	青森県八戸市
概要	<p>2001年7月、東北新幹線八戸延伸を前に八戸市役所及び八戸商工会議所が組織した新幹線八戸駅開業事業実行委員会で、当初は延伸当日及び翌日のイベント開催のみが検討されている状態だったことに対し、1997年に設立された八戸エコ・リサイクル協議会の中で検討されていた八戸の食材を活かしたオーガニック商品や八戸オリジナルメニューの開発、さらには食材だけでなく施設、食器、椅子、テーブルも含め、食べる環境をトータルとして考えた「食文化の環境プロジェクト」の考えや、新幹線八戸駅開業事業実行委員会の中に設置された食文化創造部会による「北のグルメ都市・はちのへ」の確立とPRを目標とする創作・アイデア郷土料理企画事業や懐かしの味八戸ラーメン企画事業検討等が一体化したアイデアとして、屋台村（みろく横丁）が開設されることになった。</p> <p>新幹線八戸駅開業における、お客様へのおもてなしの目玉、中心市街地の活性化、日本初の環境対応型屋台村、八戸の情報発信基地、若手起業家の育成、全国に誇る八戸のオーガニック食材の提供と八戸の新名物料理・郷土料理を一堂に集めて紹介、スローフード時代の幕開けの象徴、をコンセプトとし、25店舗から成る屋台村が2002年11月にオープンした（グランドオープンは2003年2月）。</p> <p>環境対応型屋台村として、建設時には屋台に再生品、建築廃材を使用するほか、路面に廃タイヤと回収トレーのリサイクル品を使った。また、生ごみ処理機を設置し、食べ残しを肥料化して農家に無償で提供したうえで、その肥料で栽培された食材を仕入れている。</p> <p>また、店舗を若手起業家育成の場にしたいと考え、内装工事は本人負担とするものの、必要資金を金融機関から借り入れる際には当社が保証人となっている。</p>
活用している地域資源等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の農産物 ・ 地域の食文化 ・ 地域の起業家
活動の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・ 食材は地元産のものの調達を基本としている ・ 食べ残しを肥料化して農家に無償提供し、食品リサイクルを実現している ・ 若手起業家の新規参入を促すため、円滑な資金調達を支援している ・ 宣伝にはマスコミを活用
活動がもたらす価値	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の農産物の安定的な供給先確保 ・ 地域の農産物に付加価値をつけて食事として提供
地域の自立への効果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1年目は32万人が訪れ、売上高440百万円。2年目には来訪者数、売上高とも増加し、来訪者数34万人、売上高470百万円となった。オープン後2年間で4名が卒業し、八戸市内で事業を継続している

組織名	NPO 法人グリーンエネルギー青森
活動地域	青森県青森市、青森県鱒ヶ沢町
概要	<p>グリーンエネルギー青森のミッションは、「循環型社会の実現」と「地域の自立」であり、2003年2月に総事業費3億8千万円をかけ、青森県鱒ヶ沢町に風車を建設、その風車が発電した電力を東北電力へ売電している。資金の半額をNEDO（独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構）からの補助金で、半額を市民からの出資で調達しており、売電後の利益を出資者に配分する仕組みとなっている。また、市民出資の募集にあたっては、地元向けの市民自然エネルギー(株)と全国向けの(株)自然エネルギー市民ファンドがそれぞれ行っている。</p> <p>出資者が、「自分がお金を出すことで鱒ヶ沢町の地域活性化に貢献できる」という社会的な満足を得られると同時に、出資者は建設資金を投資する、という形でグリーンエネルギー青森に貢献し、事業が順調にいけば元本と利益分配分を受け取ることになり、単なる寄付ではなく市民出資という形の投資スキームを提案したことも資金を集めることに成功した要因であると言える。</p> <p>なお、本事業を行うにあたっては、我が国初の市民風車を実現したNPO法人北海道グリーンファンドが全面的にサポートしている。</p>
活用している地域資源等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 風力 ・ 市民からの出資
活動の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国の補助金と市民ファンドを有効活用 ・ 市民風車の実績ある組織とのネットワーク、支援の確保 ・ 地元だけでなく、全国的な広域的な資金集め
活動がもたらす価値	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市民参加の環境問題への取り組み ・ 売電から上がる収益を出資者へリターン
地域の自立への効果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 風車建設による鱒ヶ沢町への固定資産税収入 ・ 出資者の町への訪問（交流人口の増加）

組織名	津軽こみせ株式会社
活動地域	青森県黒石市
概要	<p>長年黒石市で商店街の近代化に取り組んでいた当社社長 K 氏が地元若手有志を引っ張りながらあきらめず、こみせを活かした中心市街地活性化基本計画を作成し、飲食物販機能を持つ「津軽黒石こみせ駅」をリニューアルオープンした。その後、イベント広場である「じょんから広場」や古い米倉を再生した多目的ホール「こみせん」を完成した。</p> <p>一時は、こみせ駅の場所に高層マンションの建設計画が持ち上がったが、こみせを守ろうとした青年商工会議所会員やその OB がこの土地を取得し、黒石まちづくりの転機となった。ただ、土地取得後、様々な地域活性化の活動が行われたが起爆剤にはならず、実際の事業化の段階になると、リスクを恐れて誰も事業化しない、リーダーとして先頭に立ち街を真剣に考えて行動を起こそうという人は誰もいない、という状況に陥り、K 氏も含め中心市街地の再生に限界を感じる状況が 9 年間続いた。</p> <p>平成 9 年に中心市街地活性化基本計画作成委員会の委員に推薦された K 氏はこれが最後のチャンスと考えた。商店街の再生・活性化は「まち」を残し、育てる運動であり、歴史、伝統、文化を守り育てるためには商店街の存在はかせないとの思いで、当事業に取り組んだ。</p> <p>平成 12 年に津軽こみせ(株)が設立され(資本金 9,800 万円:第 3 セクター) 同年 TMO 構想認定、平成 14 年 TMO 計画が認定された。</p>
活用している地域資源等	<ul style="list-style-type: none"> ・ こみせ ・ 津軽三味線、じょんから節
活動の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・ イベント広場にて、津軽三味線ライブの無料開催(1日2回) ・ オリジナル商品、企画事業等の推進 ・ まちづくりを成功に導くため、行政、商工会議所、商工会、担当者での役割分担の明確化
活動がもたらす価値	<ul style="list-style-type: none"> ・ 交流人口の増加 ・ 地域住民の地域に対する誇り、自信
地域の自立への効果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 津軽三味線の無料ライブの開催、黒石特産の土産や青森県の物産の販売により、観光客の増加につながっている

組織名	展勝地がいあ市「バザール街道 107」実行委員会
活動地域	岩手県北上市
概要	<p>1921年に整備された桜の名所である展勝地を、年間を通じて観光客が訪れる場所とすべく、北上市役所がレストハウスを整備することとした際、北上市役所は、平泉と花巻温泉の中間に位置する休憩場所としての利用を念頭に、国際興業株式会社や藤田観光株式会社への運営委託を検討していた。しかし、展勝地が坂上田村麻呂による支配時代に仏教文化の中心地として栄えた歴史を持つ場所であるため、レストハウスを「展勝地一帯の、ひいては北上地方の歴史的文化的価値、自然的価値を愛する市内外の人々を結ぶ出会いと交流の拠点」、「地域づくりを考えようとする人々の思索・行動の拠点」としたいと考える一部の市民がレストハウス運営の地元業者への委託を働きかけた結果、地元の企業経営者らにより設立された株式会社展勝地が、1990年の開設時よりレストハウスの運営を行うこととなった。</p> <p>株式会社展勝地は、食事については、雑穀カレー、手打ちそば、餅など地元の食材を活用している。しかし、土産品は北上市のものだけでは品揃えが不十分だったため、大船渡市及び北上市の縄文時代の遺跡から秋田産のアスファルトが出土した歴史的事実に因み、岩手県大船渡市と秋田県本荘市を結ぶ国道107号線をアスファルトロードと捉え、国道107号線沿いの市町村の特産品なども扱うようになった。</p> <p>さらに、国道107号線を核として、モノを介在した人、文化の交流を促進するため、同社が金銭的に支援しつつも、同社とは別の組織（展勝地がいあ市「バザール街道107」実行委員会）が1990年より毎年、国道107号線沿いの市町村の参加を得て、それぞれの特産品を販売する「市」を開催するようになった。1997年からは、国道107号線沿いの市町村だけでなく、北上川舟運でつながりのあった北上川流域の市町村も市に参加している。来訪者数は、2日間の期間中に2～3万人程度。</p>
活用している地域資源等	<ul style="list-style-type: none"> 人々の交流の歴史（アスファルトロード、北上川舟運）
活動の工夫	<ul style="list-style-type: none"> 実行委員会委員などボランティア中心の運営により、低廉な出店コストを実現（出店者の参加費は、チラシ製作費5,000円のみ） 宣伝にはマスコミを活用
活動がもたらす価値	<ul style="list-style-type: none"> 市町村の枠組みを超えた連携軸による新しい土産品開発（例：北上夜曲を奏でる木製のオルゴールを木工芸品の製作が盛んな宮城県本吉郡津山町で商品化）
地域の自立への効果	<ul style="list-style-type: none"> 地域の中心都市として集客力を持つ北上市において、周辺市町村の特産品を紹介する機会を設け、地域間の交流を促進するとともに、地域全体の情報発信力を向上

組織名	株式会社松栄堂
活動地域	岩手県一関市
概要	<p>当社は、1903年創業の和菓子、洋菓子ともに扱う菓子会社。田むらの梅、ごま摺り団子など約250品目を生産している(2003年6月期売上高1,153百万円、当期利益3百万円)。</p> <p>当社を代表する商品である「田むらの梅」で使用する紫蘇は、岩手県南部、宮城県北部の農家から契約栽培で仕入れている。紫蘇については、お菓子の材料として使うだけでなく、紫蘇茶、紫蘇ジュースとしても加工、販売している。現在は、紫蘇の付加価値をさらに高めるために、岩手県農業研究センターと紫蘇タブレットの開発に向けて共同研究を実施中である。これらの取り組みを通じて、契約栽培を委託している農家から紫蘇を買い入れる価格を高くできるようにすることで、紫蘇の安定供給元の確保と農家の所得水準向上を実現し、両者の共存共栄を図ろうとしている。</p>
活用している地域資源等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 紫蘇
活動の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・ お菓子の材料以外の紫蘇活用策に着目 ・ 地域の研究機関の活用 ・ 宣伝にはインターネットを活用
活動がもたらす価値	<ul style="list-style-type: none"> ・ 紫蘇の活用用途拡大 ・ 紫蘇に付加価値をつけることにより、契約栽培を委託している農家からの紫蘇の買い入れ価格を高くできる
地域の自立への効果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 紫蘇の新規需要開拓 ・ 農家の所得水準の向上

組織名	あやおり夢を咲かせる女性の会
活動地域	岩手県遠野市
概要	<p>圃場整備の話が出てきた際に、1人の女性がトイレ設置を遠野市役所に要請したところ、個人の意見としてではなく、団体を設立し、町内の女性の声として提言するよう勧められたことを受け、1994年に21名で設立。</p> <p>取り組みの結果、1997年に圃場トイレが1か所整備されたが、活動をそのまま終わらせるのではもったいないとの考えから、今後何に取り組んでいくか会員の意見集約を行い、夢を語ること（今までの生産物に付加価値をつけること）綾織らしい環境づくり（家の周りをきれいにする）次世代のために、女性の生き方（ただ働くだけでよいのか）を活動の方向性とした。</p> <p>そのような折に、遠野市に道の駅が開設されることとなり、遠野市役所と交渉の末、会員たちが作って食べてきたものを売るお店（夢咲き茶屋）を1998年に開店した。</p> <p>1999年には、圃場整備により田圃が広くなり、草取りが大変になったため、4匹の綿羊を飼い始めた。そして、以前はどの家庭でも羊を飼い、羊毛の機織が盛んだった歴史を子供たちに伝えることを目的に、綾織小学校の児童を対象に機織の体験会を開催している。</p> <p>そして、2001年からは、観光客の少ない冬に、北東北3県が連携して鍋料理を持ち寄って交流する「北東北ナベナベサミット」を提案、参加している。</p>
活用している地域資源等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の住民 ・ 地域の農産物、伝承料理 ・ 地域の文化
活動の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・ 農産物を、会員からだけではなく、若手農業担い手グループ夢現会や、綾織中学校の学校農園から調達し、活動への参加主体を増やしている ・ 1999年度に夢咲き茶屋運営のために企業組合夢咲き茶屋を設立。会計を明確化するとともに、働いた人に給与を支払い、活動を継続的なものとする基盤を整備した
活動がもたらす価値	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の農産物の安定的な供給先確保 ・ 地域の農産物に付加価値をつけて食事として提供
地域の自立への効果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 夢咲き茶屋の売上高は、初年度1,800万円から2001年度には5,000万円を超え、地域に新しいコミュニティ・ビジネスを創出

組織名	株式会社岩泉産業開発
活動地域	岩手県下閉伊郡岩泉町
概要	<p>1963年に唯一の鉱山だった日本粘土岩手鉱業所が閉山、そして1977年には明治乳業岩泉工場が閉鎖されるなど企業の撤退が相次ぎ、過疎・人口流出に拍車がかかる中で、山菜や漬物などの地域資源を活用し、岩泉町の活性化を図るため、1982年に社団法人岩泉町産業開発公社が設立された。</p> <p>当初は山菜、きのこ類の加工販売を行っていたが、1985年に龍泉洞地底湖の水が環境庁（現・環境省）から名水百選に選定されたことを契機として、龍泉洞地底湖の水の販売も開始した。現在は、水のほか、コーヒー、烏龍茶、緑茶も販売している。</p> <p>また、1994年からは、1970年代より町の伝統料理を研究していた八重樫春子さんらの住民グループが、岩手大学の鷹嘴名誉教授（食物学）の指導を受けながら開発したどんぐりパン、そば、まんじゅうなどの生産・販売に着手した。なお、どんぐりは、岩泉町では縄文時代から食べ継がれてきたものである。</p> <p>2000年からは、これまで原料として県外に出荷していたわさびを材料とする商品開発を行い、ドレッシング等の販売を開始した。もっとも、現時点ではわさび製品の生産設備がないため、OEMにより確保している。</p> <p>2002年に、社団法人岩泉町産業開発公社の収益部門が分離・独立し、当社が設立された（資本金 426 百万円、岩泉町出資比率 86%）。</p>
活用している地域資源等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の農産物
活動の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・ 当初はイベントや催事に出展し、個人客向け知名度の浸透を図ってきた。現在は、個人客からは通信販売やインターネット経由での注文を受け付けている ・ 大量生産が可能な水関連の商品は、問屋や小売店にアプローチして販路を確保し、関東地方にも出荷している ・ 岩泉町は面積の 94%を山林が占めており、山林のブナなどの広葉樹がいい水をつくるもととなっていることから、どんぐりとおいしい水をセットで売り込み、商品にストーリー性を持たせている
活動がもたらす価値	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の農産物の安定的な供給先確保 ・ 地域の農産物等に付加価値をつけて提供
地域の自立への効果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 当社の 2004 年 3 月期の売上高は 1,061 百万円で、37 名の雇用を創出している

組織名	株式会社小山製麺
活動地域	岩手県一関市
概要	<p>昭和 35 年創業の製麺会社。「東北で最もきれいな川」に選ばれた胆沢川の水と南部小麦を原料とした麺づくりに取り組んでおり、主力商品の「とろろうどん」を筆頭に、そば、そうめん、ひやむぎ、ラーメン、冷麺のほか、つゆなどを含め、約 160 品目を生産している。</p> <p>また、風味のよい南部小麦を原料としたそば類の他に、ピーマンうどんを生産している。胆沢町は、ピーマン生産量が日本一になったこともあるほどピーマン栽培が盛んであるが、中には規格外のものもあったため、規格外のピーマンの有効活用策を検討する中で、ピーマンを粉末状にし、うどんと一緒に練りこんだ商品を開発した。</p>
活用している地域資源等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 東北で最もきれいな川の水 ・ 南部小麦
活動の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・ 南部小麦を確保するに際して、契約栽培はしていない（国内産の小麦の価格は輸入品の 4～5 倍するため、政府が一括して買い上げ、輸入品との価格差を調整している。当社が小麦生産者と契約栽培するとなると、政府の買い上げ価格と同額を支払わなければならない、採算性が悪化してしまうため） ・ 毎年 1～2 品目の新商品を開発している ・ 販路拡大に向けた取り組みとして、県外で開催される物産展への出店や、ホームページを通じて商品の紹介を行っている ・ 顧客データをコンピューターで管理し、お歳暮の時期などに商品案内のダイレクトメールを送付。ダイレクトメールでは、自社商品だけでなく、胆沢町で採れる米なども取り扱っている。そのことにより、「水のおいしい」胆沢町をアピールしている
活動がもたらす価値	<ul style="list-style-type: none"> ・ 規格外農産物の有効活用
地域の自立への効果	<ul style="list-style-type: none"> ・ ダイレクトメールでは、自社商品の案内とともに米などの地域資源も取り扱っており、地元地域のアピールにも貢献している

組織名	電気機器メーカー
活動地域	岩手県北上市、二戸市、花巻市、秋田鹿角市
概要	<p>昭和 28 年に創業。当初は板金加工を行っていたが、その後、情報機器の進歩発展に着目してコンピュータ周辺機器の組立・加工なども手がけるようになった。</p> <p>事業を開始した神奈川県川崎市の本社工場周辺で住宅開発が進み、騒音、振動の出る板金加工を行う工場の拡張が難しくなったことと、人件費の高騰を背景に、北海道や北東北などの工業団地への進出を検討するようになった。</p> <p>昭和 59 年 4 月に岩手県北上市に工場を建設。北上市に進出を決めたのは、工業団地を視察した後に、北上市長が当社を訪れて進出を訴えかけたことによるところが大きい。進出した当初は、外注が必要な工程を当社本社のある神奈川県の事業者へ委託していたが、他社からの紹介などにより徐々に北東北内でも外注を依頼するようになっていった。外注を依頼するにあたっては品質が何よりも重要であり、近くに外注先がなくても、まとまったロットで発注すれば物流コストを抑えられるので、近くに外注先があるかどうかは考慮しなかった。</p> <p>続いて、昭和 63 年 10 月に秋田県鹿角市に工場を建設。同市にあった外注先が事業から撤退することになった際に、同社従業員から仕事の場を確保するために進出を求められたのが進出のきっかけである。また、同市が過疎地域の指定を受けており、立地に当たって助成金を受け取ることができたのも決め手の一つである。</p> <p>その後、生産拠点があまり離れていない方が拠点間での物流を効率化できる、という理由から、平成 5 年 4 月には岩手県二戸市に工場を建設した。</p> <p>また、平成 16 年 7 月には岩手県花巻市に MS 開発技術センター（実際には量産工場）も建設している。</p>
活用している地域資源等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 土地、地元住民 ・ 生産拠点の集積
活動の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業を行うために十分な広さの土地があることと、人件費の水準が低いことを重視して進出を決めた ・ 研究開発は本社で担当しており、北東北の工場は生産機能に特化している ・ 顧客のほとんどが関東地方の企業であるため、北東北の工場の営業スタッフも神奈川県の本社に常駐している
活動がもたらす価値	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域住民の安定的な雇用の確保
地域の自立への効果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 鹿角市での撤退した外注先の従業員の再雇用を含めた、各地域での工場進出による雇用の創出

組織名	秋田トライアスロン芭蕉レース象潟大会実行委員会
活動地域	秋田県由利郡象潟町
概要	<p>松尾芭蕉が「奥の細道紀行」で訪れた最北の地「象潟」を県内外に周知する目的で昭和 62 年に実行委員会が発足。翌、昭和 63 年より、毎年 7 月に象潟海水浴場と鳥海山ろくを会場にした水泳 1.5km、自転車 40km、長距離走 10km で競われる、全国有数の規模を誇るトライアスロン大会を開催している。</p> <p>象潟町人口の 1 割以上の町民（約 1,500 名、44 団体）が、給水や選手移動のボランティアで大会運営を支えている。</p>
活用している地域資源等	<p>地元住民</p> <p>自然環境（象潟海水浴場、鳥海山ろく）</p>
活動の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「トライアスロンを国体の種目に」、「秋田県からオリンピック選手を」などの合い言葉のもと全国に情報を発信している。 ・ 車中泊やテント宿泊者を出さないよう、ボランティアが安価に宿泊先を斡旋している ・ ボランティアの中から運営委員会の部長、副部長に登用する象潟方式により、地域の人材と担い手を育成している
活動がもたらす価値	<ul style="list-style-type: none"> ・ 参加選手を受け入れる旅館をはじめ、数々の協賛企業が大会を支援。旅館や観光土産店、一般商店の多くの売上げアップにつながっている ・ 町も「町民総健康の町づくり」を施策のテーマとして設定
地域の自立への効果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 単なる自然環境を見て楽しむという従来の観光誘客とは全く異なった、『“健康への要求”という外部環境に対して、海と山という良好な自然環境を活かしたトライアスロンというイベントを提供する』というアプローチにより、全国から 2,000 人以上の参加者を集めている ・ 大会を通じたボランティア参加がきっかけとなり町民同士のコミュニケーションができあがり、これを核とした交流が広がることで、失われがちな地域コミュニティの再活性化にも貢献している

組織名	JA あきた北央
活動地域	秋田県合川町
概要	<p>平成 11 年、北秋田郡内の合川町、森吉町、上小阿仁村、阿仁町の 4 町村の広域合併により J A あきた北央が誕生。</p> <p>水田の転作の有効利用から、昭和 62 年に比内地鶏の放し飼いを始める（ブロイラーが 1 坪に 10 羽の割合で飼育されるのに対し、比内地鶏は 1 坪 1 羽の割合である）。当初は 16 戸 2103 羽であったが、現在では 35 戸の農家が取り組んでいる。</p> <p>現在のような“比内地鶏ブランド”を確立した経緯として、東京の国立にある紀伊国屋と取引を始めたことがきっかけとなった。ブランド的にも紀伊国屋なら大丈夫だろうということもあった。また、価格を設定したら絶対に下げない、下げるところとは取引しない、などを徹底、その結果が今のブランドとしての確立につながっている。農産物は本来全農を通すのが基本であるが、比内地鶏の営業に関しては全農を通さずに営業をした。その後、伊藤忠など首都圏の業者へ売り込みを続け、現在販売先は約 500 社である。</p>
活用している地域資源等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の農畜産物
活動の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・ 比内地鶏飼育を始めた当初から生産履歴を付け品質管理をしてきた（トレーサビリティ）。当時としては最先端であったと言える。また、履歴と異なることをした農家は除外するなど、生産農家にもペナルティを与えている ・ 比内地鶏の肉だけを売るのではなく、鶏ガラスープ、比内地鶏ご飯の素などの二次加工品を売るなどして、付加価値を付けている ・ 比内地鶏の卵を菓子屋へ提供している ・ 比内地鶏以外の新商品の取り組みとして、最近では豆乳の製造をしており、県内だけでなく首都圏の居酒屋にも卸している ・ 冬期の収入源確保のため、リース事業として、一般農家に機械を貸し出し、きりたんぼの製造をしてもらっている
活動がもたらす価値	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の農畜産物の安定的な供給先確保 ・ 地域の農畜産物に付加価値をつけて販売
地域の自立への効果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現在（15 年度）の処理羽数は約 135,000 羽、比内地鶏製品の販売額は約 550,000 千円である ・ 平成 14 年度の「アグリチャレンジャー支援事業」で 20 万羽処理施設を取得し、雇用の機会が生まれた（現在パートは約 70 名）

組織名	モクネット事業協同組合
活動地域	秋田県二ツ井町
概要	<p>地元の商工会青年部の活動から始まり、昭和 63 年に町おこし会社である（株）木創 を設立（13 業種 17 人）。町おこし会社は元々第三セクターのなり損ないであったため、素人集団ではうまくいかないだろうと予想していた加藤氏（当組合代表理事）は、外部コンサルタントを依頼し、事業計画を立てる。20～30 年、またはそれ以上先を見越しての計画であったため、当時は時代に逆行していると思われていたが、結局は現在事業計画どおりにいっていると言える。今後も持続させていく予定である。</p> <p>平成 2 年には、市民運動の一つである“森林問題を考える会”と青年会の活動が中心となり、資本金 50 万円でモクネット事業協同組合を設立する。産地ではなく消費地からの要求でできた組合であり、また規約があるといったような団体ではない。木創では秋田杉の出荷を主な事業としていたが、モクネットでは秋田杉を使った実用的な木工品（米びつ、書類入れ等）を作り、目に見えるもの、触るものを通じて秋田杉の良さを知ってもらいたいと考えた。消費者のニーズを知るために、当時二ツ井に農産物の協同購入に来ていた「生活クラブ」に、購入の対象を木材まで広げてもらうように交渉。生活クラブの組合員が家を建て始めたことをきっかけに、相互に研究をしようこととなった。</p> <p>産地と都市を直結し、自分達で植林・製材した杉材を安定供給することで、秋田杉の需要に拡大に努めている。</p>
活用している地域資源等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の林産資源
活動の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・ モクネットは事業組合ではあるが、同業者の集まりではない。また、組合員は異業種の集まりであり、設計担当、製材担当、木工担当などそれぞれの役割を限定して関わってもらっており、モクネットの事業にはかかわっていない ・ 会社丸ごとでの付き合いはせず、あくまでも本業の邪魔にならない程度での担当者レベルでの付き合いに限定している ・ 人材育成、営業経費など本来組織運営の際に掛かる金が全く要らないため、最低限の金、利益のみで足りている。リスクは予め分担しているので、そのための金も要らない ・ 米代川流域は木材産業が非常に強いため、競争を避けるためにも担当者レベル、部分的のみでの付き合いにとどめている。モクネットは持続させることが大目的であるので、価格競争も含め競争はしない ・ リスクを避けるため、普通は木材に薬品処理（防カビ、防虫、色入れ等）を施すなど手を加えてしまうことが多いが、大事なものは供給している“木材”であることを大前提としているため、このような薬品処理は一切やっていない
活動がもたらす価値	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の林産資源の安定的な供給先確保 ・ 地域の林産資源に付加価値をつけて販売
地域の自立への効果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地球環境にやさしく健康にもよいエコロジー住宅が注目され、ユーザーからの需要が伸びている。また、一般住宅だけでなく二ツ井町の町営住宅建設といった「きみまちモデル住宅」の建設により、広く域外へと情報発信できる

組織名	北秋田森林組合
活動地域	秋田県鷹巣町
概要	<p>無計画に植えられてしまったために“質が悪い”という理由で捨てなくてはならない大量の木材を何とかして売って金にして山主に返さなくてはいけない、というのが当森林組合の使命であり、いかに当組合と秋田杉の名前を広めるか、いかに事業を安定させるか、ということが大目的であった。間伐も収入源の一つではあるが、その他の収入源として、製材所からはじかれてしまう木材を何とか資源にできないだろうか、という発想からこれらを製品化しようという動きが出てきた。</p> <p>昭和 59 年、当時あった 20 社の製材所とバッティングしないよう、円柱材を作る工場を新設する。しかし、悪い材料、欠点は結局そのままになっており、製品で売るのは不可能であったため、首都圏に売れるような商品を作ろうと考えた。商品にすることで材料の欠点を除去することができ、また、加工することで付加価値をつけることが可能になった。</p> <p>試作品を作り、とりあえず商品化してみる、という試行錯誤を 2 年ほど繰り返したが、商品化し売り出すことで流通を学ぶことができたのは、大きな財産となった。</p> <p>その後、プランコを売り出す際にちょうど「総合地域整備法（いわゆる“リゾート法”）」の施行と時期が重なったこともあり、億単位で売れた。公共事業や公園整備等にも木材が使われるようになった。その後もしばらくは“試作 商品化”というやり方を続け、各地の産業祭等に試作品を出展した。</p> <p>新規企業も進出していたが、商品化、流通のノウハウもだいぶ身につけていたので、こちらからどんどん新しいものを企画し提案していった。また、現在も常に機械の改良を重ねている。</p>
活用している地域資源等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の林産資源
活動の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・ とにかく動きながら勉強する、というスタンスで地道に売上を伸ばし、結果的に昭和 57～59 年の 2 年間で 5000 万円の赤字を 2 年で改善。まず行動を起こす、ということを常に念頭に置いている ・ 当組合で持っている機会は古いですが、二次加工できる能力、スタッフは揃っているため、新しい機械を持っている所から製品を購入し商品化することも可能
活動がもたらす価値	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の林産資源の安定的な供給先確保 ・ 地域の林産資源に付加価値をつけて販売
地域の自立への効果	<ul style="list-style-type: none"> ・ かつては規格外とされていた木材を有効活用し、販路を拡大することで、組合としての事業の安定を図るとともに、秋田杉を広く情報発信することが可能となった

4. 北東北における観光について

日本人観光客の旅行先での行動

日本人観光客の旅行先での行動を見ると、温泉浴並びに自然の風景を見ることが高い割合を占めている。それらの行動は、北東北3県において実行しやすいものであり、北東北3県は観光地としての素地を持っていると言える。

宿泊観光旅行先での行動（複数回答）

	1990年	1992年	1994年	1996年	1998年	2000年	2003年
温泉浴	43.1%	44.2%	42.5%	48.7%	45.8%	51.3%	52.7%
自然の風景を見る	49.0%	45.7%	44.8%	46.5%	44.3%	49.4%	46.8%
特産品等の買物・飲食	25.7%	27.1%	27.4%	26.1%	23.6%	28.7%	29.7%
名所・旧跡を見る	34.1%	32.7%	30.6%	32.9%	29.3%	31.7%	29.0%
動・植物園等見学	19.0%	18.7%	18.7%	20.5%	18.0%	18.0%	17.1%
ドライブ	24.5%	25.0%	24.3%	10.6%	11.1%	13.3%	14.7%
レジャーランドなど	7.4%	8.3%	7.9%	7.8%	12.7%	12.9%	13.7%
季節の花見	4.5%	4.5%	5.4%	7.0%	7.6%	10.2%	8.9%
神仏詣	11.3%	9.3%	7.8%	8.4%	8.3%	8.3%	7.3%
都会見物	4.0%	4.1%	4.2%	4.1%	4.7%	5.3%	5.2%

出典：社団法人日本観光協会 『平成15年度版 観光の実態と志向』

北東北3県の主な観光資源

	観光資源
温泉	青森県：谷地、十和田湖、酸ヶ湯、黄金崎不老ふ死 岩手県：花巻、岩手大沢 秋田県：乳頭温泉郷、玉川
自然の風景	青森県：十和田八幡平国立公園、白神山地 岩手県：十和田八幡平国立公園、陸中海岸国立公園 秋田県：十和田八幡平国立公園、白神山地

（注1）温泉は、第18回にっぽんの温泉100選（観光経済新聞主催）に選定された場所

（注2）自然の風景は、国立公園並びに世界遺産のみを記載

外国人観光客の来訪状況

1998年度と2002年度における外国人観光客の訪問率を比較すると、青森県及び秋田県では訪問率が上昇しているものの、岩手県は伸び悩んでいる。

外国人観光客の道県別訪問率の推移

	1998年度	1999年度	2000年度	2001年度	2002年度
北海道	3.4%	3.2%	2.7%	2.7%	9.1%
青森県	0.5%	0.7%	0.4%	0.7%	1.0%
岩手県	0.4%	0.4%	0.4%	0.5%	0.4%
秋田県	0.4%	0.5%	0.3%	0.4%	0.7%

出典：独立行政法人国際観光振興機構 『2002 - 2003 訪日外国人旅行者調査』

外国人観光客の国籍別訪問率を見ると、台湾、香港に代表されるアジアの人々の訪問率が高い傾向にある。各県とも台湾からの観光客受け入れには一定の成果を挙げているものの、駐在員事務所のある韓国から日本を訪れる観光客の訪問率には改善の余地がある。

外国人観光客の国籍別訪問率（2002年度）

	韓国	台湾	香港	中国	米国	英国
北海道	5.9%	20.9%	30.8%	4.7%	3.8%	4.1%
青森県	0.4%	1.8%	1.1%	0.8%	1.4%	0.7%
岩手県	0.1%	1.4%	0.2%	0.5%	0.1%	0.2%
秋田県	0.3%	2.0%	0.6%	0.8%	0.4%	0.9%

出典：独立行政法人国際観光振興機構 『2002 - 2003 訪日外国人旅行者調査』

外国人観光客の季節別訪問率からは、北海道と異なり、北東北3県では秋期の集客では健闘している一方で、冬期の集客に課題があることがうかがえる。

外国人観光客の季節別訪問率（2002年度）

	通年	夏	秋	冬
北海道	9.1%	11.0%	6.2%	9.6%
青森県	1.0%	1.1%	1.0%	0.8%
岩手県	0.4%	0.3%	0.6%	0.3%
秋田県	0.7%	0.7%	1.0%	0.5%

出典：独立行政法人国際観光振興機構 『2002 - 2003 訪日外国人旅行者調査』

訪問都道府県別他都道府県訪問率を見ると、北東北3県いずれかの県を訪れた訪問客の多くは、北東北の他県もある程度訪れる傾向にあることがわかる。今後、北東北3県間の相互訪問率を高めることにより、各県の外国人観光客数は増加するものと思われる。

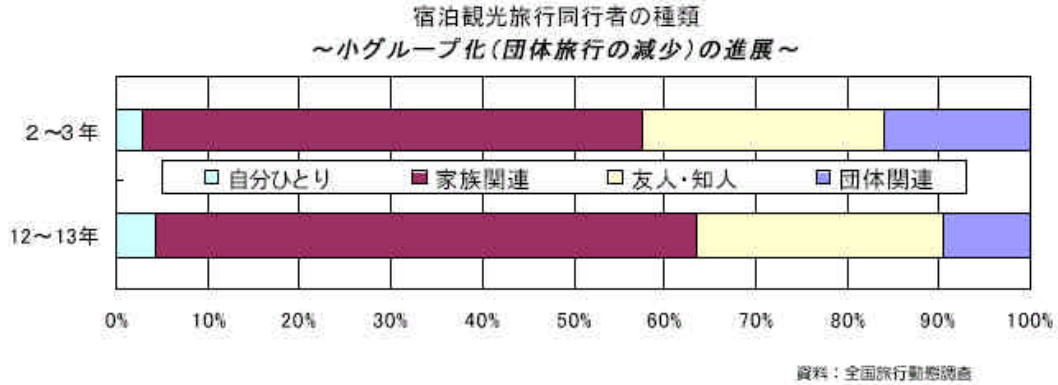
訪問都道府県別他都道府県訪問率（2002年度）

北海道		青森県		岩手県		秋田県	
東京都	32.9%	東京都	61.6%	東京都	64.5%	東京都	73.6%
大阪府	17.6%	宮城県	34.2%	宮城県	58.1%	宮城県	45.3%
千葉県	9.7%	秋田県	27.4%	秋田県	51.6%	青森県	37.7%
京都府	6.8%	北海道	21.9%	青森県	38.7%	大阪府	34.0%
神奈川県	4.6%	岩手県	16.4%	山形県	35.5%	岩手県	30.2%

出典：独立行政法人国際観光振興機構 『2002 - 2003 訪日外国人旅行者調査』

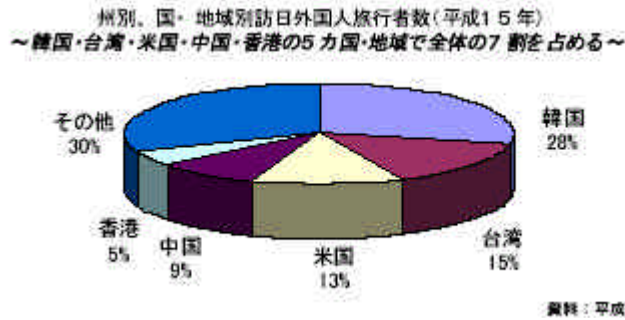
国内旅行の形態

国内旅行においては、家族や知人・友人といった小グループ化が増加し、団体関連の割合



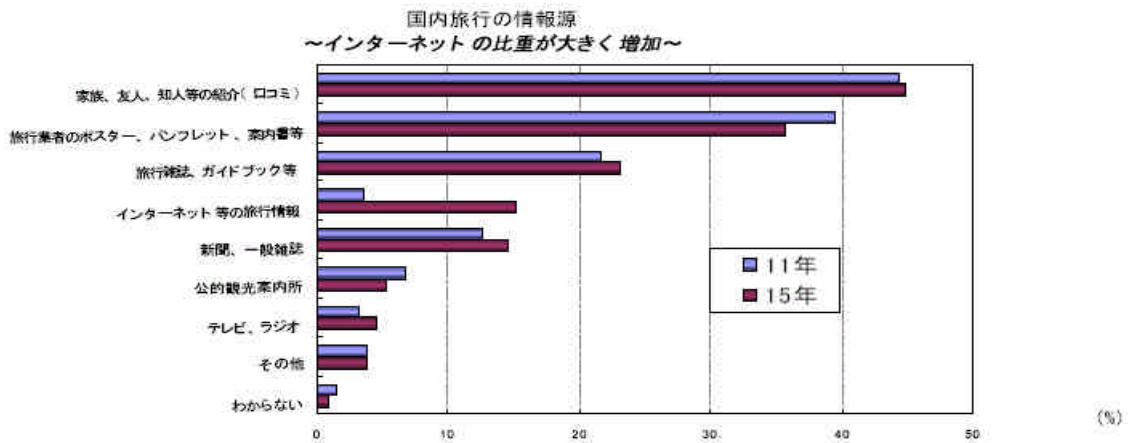
訪日外国人旅行者のターゲット

我が国への外国人旅行者の状況から、韓国、台湾、米国、中国、香港がターゲットと想定される。



旅行の情報源

旅行情報の情報源については、国内旅行ではインターネットの利用が増加している。また、海外での訪日旅行の情報源は、旅行代理店がトップであるが、口コミやインターネットも多い。



出典：余暇時間の活用と旅行に関する世論調査(11年)
自由時間と観光に関する世論調査(15年)

訪日観光旅行の情報源〔複数回答〕 (%)

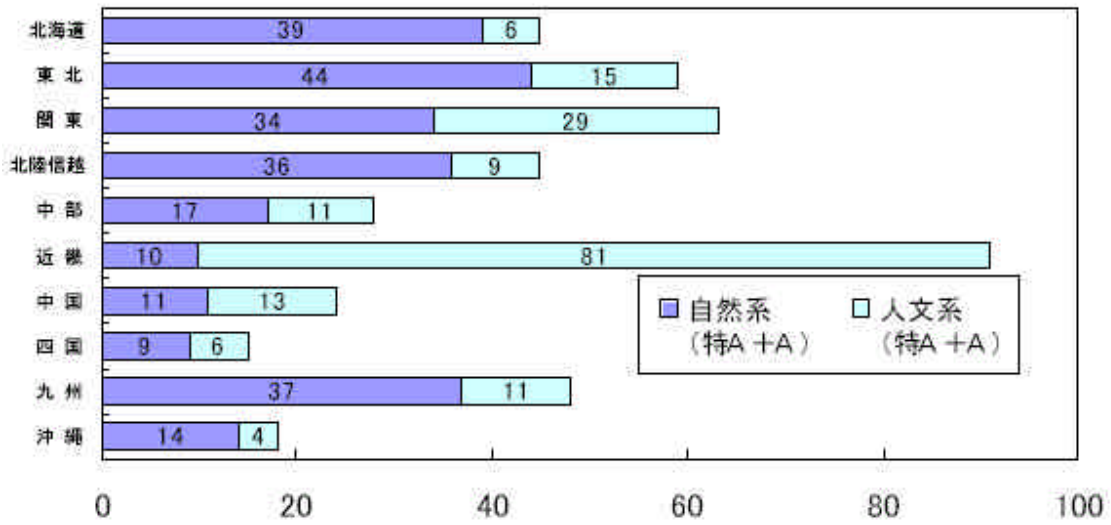
	韓国	台湾	香港	中国	米国
旅行代理店	42.3	70.9	63.8	46.2	31.3
友人・家族等の口コミ	33.7	21.0	23.9	42.3	46.3
新聞・雑誌	7.1	9.7	19.0	15.4	3.4
旅行ガイドブック	24.0	11.4	31.9	7.7	36.7
テレビ	3.5	2.9	8.0	0.0	0.0
航空会社	0.3	2.2	0.6	0.0	3.4
インターネット	22.8	4.1	11.7	11.5	23.8

出典：東北6県グローバル観光振興戦略策定調査報告書

観光資源の評価

東北地方の観光資源に対する評価については、自然系に対する評価が高く、自然系を中心にした観光資源に恵まれていると考えられる。

評価観光資源数
 ～自然系を中心に観光資源に恵まれる東北～



資料：観光資源評価台帳

注) 特A：我が国を代表する資源で、かつ世界にも誇示しうるもの
 A：特Aに準じ、その誘致力は全国的なもの